

第 71 回国立大学図書館協会総会議事録

日 時	令和 6 年 7 月 9 日 (火) 13:00～17:30
	令和 6 年 7 月 10 日 (水) 9:30～12:25
会 場	ニューウェルシティ宮崎 (YouTube Live 配信あり)
当 番 地 区	九州地区
当 番 館	宮崎大学附属図書館
出 席 者	1 日目 出席者
	会員 91 大学・機関 168 名
	文部科学省 3 名
	オブザーバー1 機関 2 名
	2 日目 出席者
	会員 91 大学・機関 161 名
	文部科学省 3 名
	オブザーバー1 機関 2 名
欠 席 者	会員 1 大学・機関
※YouTube Live 視聴者	1 日目 238 名
	2 日目 256 名

- 7 月 9 日 (火) -

1. 開会式

- 1) 開会の辞 永盛 克也 (国立大学図書館協会副会長)
- 2) 挨拶 鮫島 浩 (宮崎大学学長)

2. 議長団選出

司会 (宮崎大学附属図書館 杉本事務長) より、議長団の選出について事務局に提案が求められた。これを受けて、大山事務局長 (東京大学附属図書館事務部長) から理事会案が提示され、次のとおり承認された。

議長団 議 長 山本 文彦 (北海道大学附属図書館長)
副議長 中村 博和 (佐賀大学附属図書館長)

(総会資料 本編 p. 5 参照)

山本議長、中村副議長の挨拶のあと、議事に先立ち以下の報告があり、了承された。

5 月 20 日の春季理事会の議を経て、協会事業と関連の深い文部科学省研究振興局及び国立情報学研究所 (以下、NII という) 学術基盤推進部に、協会として出席を依頼した。

3. 全体会議 (1)

1) 報告事項

(1) 一般経過報告

大山事務局長から、昨年 の 第 70 回総会以降の本協会の活動について、以下のとお

り報告があった。

1. 理事会

① 第1回理事会（令和5年6月23日（金） 一橋大学一橋講堂）

- ・ 会長・副会長の選出及び会長から各委員会の委員長の指名を行った。
- ・ 災害対策拠点の選出について了承された。

② 秋季理事会（令和5年10月26日（木） オンライン開催）

- ・ 海外派遣事業について、スケジュールやオンラインによる国際会議での発表や出席について協議した。審議の結果、原案どおり了承された。
- ・ 今後の総会について、日程や会場、開催方法について協議した。第72回総会については、東北地区を当番地区とすることが了承された。

③ 春季理事会（令和6年5月20日（月） オンライン及び東京大学附属図書館）

- ・ 国立大学図書館協会ビジョン2025 総括及び次期ビジョン策定のスケジュールについて協議した。協議の結果、ビジョン2025の総括と次期ビジョンの検討を開始することが了承された。
- ・ 「オープンサイエンスの推進に向けた協会の行動計画」について総括を行うことが了承された。
- ・ 資料委員会の構成及び事業内容の変更について、資料委員会の構成を見直し小委員会を廃止することを協議し、了承された。
- ・ 令和5年度決算（案）、令和6年度事業計画（案）、令和6年度予算（案）について説明があり、第71回総会にて協議することが了承された。
- ・ 事務局から関係団体への派遣役員について説明があり、協議の結果、了承された。

2. 令和5年度国立大学図書館協会シンポジウム

「オープンサイエンス時代の大学図書館員像：これからの<人材>構築にむけて」をテーマに開催した。

3. 令和5年度国立大学図書館協会セミナー

「オープンサイエンス時代における<場>としての大学図書館：事例から見るライブラリー・スキーマ」をテーマに開催した。

4. ビジョン2025の推進にかかる予算措置

5. 委員会主催イベント

6. 報告書等の公表

7. 令和5年度地区協会助成事業：6地区から応募があり、7件を実施

8. 令和6年度国立大学図書館協会賞：4件を採択

9. 令和2年度国立大学図書館協会海外派遣事業：渡航辞退

10. 令和6年度国立大学図書館協会海外派遣事業：応募なし

11. 「オープンサイエンスの推進に向けた協会の行動計画」に対する総括について

12. その他

令和6年能登半島地震において、会員館の被災状況及び被災地域の学生・教職員向け支援を取りまとめの上、当協会ウェブサイトで公開した。

(総会資料 本編 p. 6-40 参照)

山本議長から、委員会の活動報告及び地区協会等の活動報告を省略すること、また、総会資料及び協会ウェブサイトの内容を掲載するので、確認してほしい旨の説明があった。

(総会資料 本編 p. 41-73 参照)

2) 協議事項

(1) 令和6年度理事・監事の選出について

大山事務局長から以下のとおり説明があり、承認された。

【理事】

○ 東ブロック

- ・ 北海道地区…………… 北海道大学, 帯広畜産大学
- ・ 東北地区…………… 東北大学, 宮城教育大学
- ・ 関東甲信越地区…………… 筑波大学, 千葉大学
- ・ 東京地区…………… 東京大学, 一橋大学

○ 西ブロック

- ・ 東海北陸地区…………… 名古屋大学, 北陸先端科学技術大学院大学
- ・ 近畿地区…………… 京都大学, 大阪大学
- ・ 中国四国地区…………… 広島大学, 鳴門教育大学
- ・ 九州地区…………… 九州大学, 熊本大学

【監事】

- 東ブロック…………… 東京学芸大学
- 西ブロック…………… 宮崎大学

(総会資料 本編 p. 74 参照)

(総会資料 資料編 p. S-1~7 参照)

(2) 令和5年度決算報告・同監査報告について

(3) 令和5年度記念基金決算報告・同監査報告について

上記2件について、事務局（東京大学 佐藤附属図書館総務課長）から総会資料により、決算報告（案）及び財産目録（案）の説明があった。

令和5年度監事である横浜国立大学及び岡山大学を代表し、横浜国立大学 村瀬研究・学術情報部長から、令和5年度収支決算について適正に処理されているとの監査報告があった。

以上について、異議なく承認された。

(総会資料 本編 p. 75-79 参照)

(4) 令和6年度事業計画（案）について

大山事務局長から、令和6年度事業計画（案）に基づき以下の提案があり、原案のとおり承認された。

1. 委員会
各委員会の具体的な事業計画については、総会後の第1回理事会において、会長が各委員会の委員長を指名し、各委員長が委員会の構成を定めた後に行う。
2. シンポジウムの開催
引き続き実施する。
3. 地区活動の助成
4. 海外派遣事業
5. ビジョン2025の推進に係る予算措置
協会予算の一部を充当し、委員会の優れた計画に対して助成を行う。
(総会資料 本編 p.80 参照)

以下のとおり質疑応答があった。回答は大山事務局長が行った。

- 1) 千葉大学附属図書館 竹内館長
(質問) AIについて協会として取り組みが必要ではないのか。
(回答) 各委員会でAIの問題について認識されているが、具体的な取り組み方については今後検討する。

(5) 令和6年度予算(案)について

事務局から、国立大学図書館協会令和6年度予算(案)及び国立大学図書館協会記念基金令和6年度予算(案)が提案され、原案のとおり承認された。
(総会資料 本編 p.81-84 参照)

4. 文部科学省所管事項説明

土井研究振興局参事官(情報担当)付学術基盤整備室長から、所管事項について説明があった。

1) 科学技術政策の動向について

科学技術・イノベーション基本計画のうち、大学図書館に関する部分について説明があった。また、統合イノベーション戦略2024で「学術論文等のオープンアクセス化の推進」「公的資金による研究データの管理・利活用の推進」等があげられていると説明があった。さらに、「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」等について説明があった。

2) 学術情報基盤としての大学図書館について

『オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について(審議のまとめ)』について説明があった。また、「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会について説明があり、本検討会での議論を踏まえ、『2030 デジタル・ライブラリー』推進に向けたロードマップ」ほか成果物の第一次バージョンを令和6年7月1日に文部科学省ウェブサイトにて公開した旨報告があった。あわせて、本ロードマップ等に基づき今後実施を予定しているオープンアクセス推進に向けた調査への協力及び国立情報学研究所(NII)による「若手ライブラリアンによる将来のOA等施策調査検討合宿」への積極的な参加をお願いしたい旨説明があった。

3) 文部科学省における関連事業について

「オープンアクセス加速化事業」, 「AI 等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」について説明があった。

4) 学術情報基盤実態調査について

学術情報基盤実態調査について, 今後とも協力をお願いしたい旨説明があった。

以下のとおり質疑応答があった。回答は土井学術基盤整備室長が行った。

1) 大阪大学附属図書館 小陳事務部長

(質問) 研究評価の見直しについて, 現状と見直しをお聞きしたい。

(回答) 現状では具体的に着手していないが, オープンアクセスは研究者にとってメリットがあると感じられるような評価も必要と認識している。

2) 鳥取大学附属図書館 大園図書館情報課長

(質問) オープンアクセス加速化事業の審査の結果で指摘のあった事項は, 全体のことについて通知されるのか, 各大学個別に通知されるか。

(回答) 各大学への個別のコメントを準備している。

(総会追加資料 4 参照)

5. 国立情報学研究所事業説明

細川学術基盤推進部次長から, 学術情報基盤整備事業について, 実施体制や大学図書館との連携の枠組みについて説明があった。また, オープンサイエンスの推進について, NII Research Data Cloud や即時 OA に向けた NII の取り組みについて説明があった。

(総会追加資料 6 参照)

6. 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議報告

1) 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)

成澤 JUSTICE 事務局長 (国立情報学研究所 学術基盤推進部図書館連携・協力室長) から, 出版社交渉を通じた電子リソースの購入・利用条件の確定, バックファイル等の整備, オープンアクセスへの対応, 今後の予定等について説明があった。

(総会追加資料 7-1 参照)

2) これからの学術情報システム構築検討委員会

次良丸これからの学術情報システム構築検討委員会委員 (名古屋大学附属図書館事務部長) から, 2023 年度の活動内容として, 「『これからの学術情報システム構築検討委員会』が実現を目指すこと」や「これからの学術情報システムの在り方について (2024)」について説明があった。

(総会追加資料 7-2 参照)

3) オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)

高橋 JPCOAR 委員 (新潟大学学術資料運営機構附属図書館学術情報部長) から, 国の

OA 基本方針への対応について、「オープンアクセス加速化事業」に関する情報交換会等を開催したことが報告された。また、JAIRO Cloud 共同運営について、共同運営本部及び作業部会を設置したこと、あわせて各作業部会に参画してほしいと説明があった。さらに、COAR 年次大会が 2025 年に日本で開催される見込みであることが報告された。

(総会追加資料 7-3 参照)

7. 国立大学図書館協会賞表彰式

山中協会賞専門委員会委員長（三重大学国際・情報部長）から、審査の結果、以下の 4 件の取り組みを国立大学図書館協会賞選考基準第 4 条第 1 項に該当するものと判断し、協会賞として採択したとの報告があった。

- 1) デジタル源氏物語：研究者との連携による「源氏物語」研究プラットフォーム（東京大学附属図書館デジタルアーカイブ活用に関する勉強会（通称：裏源氏勉強会））
- 2) 著者記号管理システムの開発（東京外国語大学総務企画部学術情報課専門職員 布野真秀氏）
- 3) 学芸大デジタル書架ギャラリーの構築と展開（東京学芸大学附属図書館 Möbius Open Library ラボ）
- 4) 神戸大学附属図書館におけるチャットによるオンラインレファレンスの取り組み（神戸大学附属図書館チャットレファレンスチーム）

受賞者に対し、永盛副会長から表彰状及び記念品贈呈が行われ、祝辞があった。

(総会資料 本編 p. 37-40 参照)

8. 協会賞受賞者挨拶・プレゼンテーション

7.において表彰された協会賞受賞者から、次の 4 名が受賞の挨拶とプレゼンテーションを行った。

- 1) 中村美里氏（東京大学附属図書館情報サービス課資料整備チーム係長）
- 2) 布野真秀氏（東京外国語大学総務企画部学術情報課専門職員）
- 3) 真家美咲氏（東京学芸大学総務部学術情報課利用者サービス係）
- 4) 谷口由佳氏（神戸大学附属図書館情報サービス課保健科学情報サービス係）

各プレゼンテーションに対し、以下の質疑応答があった。

1) 中村氏プレゼンテーション

新潟大学学術資料運営機構附属図書館 高橋学術情報部長

（質問）利用者からの反応を教えてください。

（回答）研究者から高評価をいただいている。学生からの反応があったり YouTube で取り上げられたりしたこともある。

2) 布野氏プレゼンテーション

東京大学附属図書館 平田情報管理課長

（質問）若い図書館員がこれからシステム開発する場合にアドバイスはないか。

(回答) 現実の業務にあわせて具体的な目標を立てて取り組むことを積み重ねていくことで、できることが広がっていく。

3) 真家氏プレゼンテーション

岩手大学図書館 小林館長

(質問) 上司からどのようなサポート等があったか。

(回答) 若手が意見を言いやすい環境がありがたいと感じた。

4) 谷口氏プレゼンテーション

山口大学図書館 LOEHR 館長

(質問) 今までチャットに気づけなかったことがあるか。

(回答) 臨時休館等で職員がいないときに対応できなかったことはあるが、平常時は対応できている。

山口大学図書館 林田学術基盤部長

(質問) 1分以内のレスポンスの目安はどのように決めたのか。どの程度達成されているか。

(回答) 1分以上反応がないと利用者が待てないのではないかと把握している限りでは1分以内に回答できている。

(総会追加資料 9-1~4 参照)

9. 散会

- 7月10日(水) -

1. 研究集会

司会：永盛克也 氏 (資料委員会委員長，京都大学図書館機構長・附属図書館長)

1) 趣旨説明

司会から趣旨説明を行い、その後、「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた大学及び図書館における対応について」をテーマにした研究集会を以下のとおり行った。

2) 話題提供：図書館長・研究者としての OA へのスタンス

1. 羽瀧裕真 氏 (茨城大学副学長・図書館長)
2. 三隅隆司 氏 (一橋大学副学長・附属図書館長)
3. 甲賀研一郎 氏 (岡山大学附属図書館長)
4. 山本智子 氏 (鹿児島大学附属図書館長)
5. 永盛克也 氏 (京都大学図書館機構長・附属図書館長)

3) 動向紹介：オープンアクセスに関する国内外の状況

1. 機関リポジトリの現況

杉田茂樹 氏（資料委員会，京都大学附属図書館事務部長）

（代理報告：金藤伴成 氏（資料委員会，京都大学附属図書館総務課長））

2. ジャーナル購読＋オープンアクセス出版契約の状況

小陳左和子 氏（資料委員会，大阪大学附属図書館事務部長）

3. オープンアクセスに関する海外の政策動向と日本の即時 OA 方針の現場の認知・理解

金藤伴成 氏（資料委員会，京都大学附属図書館総務課長）

4) パネルディスカッション・全体ディスカッション

（総会資料 本編 p.85-86 参照）

（別紙「第71回国立大学図書館協会総会研究集会議事要旨」参照）

2. 全体会議（2）

1) 理事会への付託事項の確認

中村副議長から，総会議事及び研究集会の内容に基づき，当協会の活動における AI への対応について理事会に付託し対応を協議したいとの提案があり，承認された。

3. 次期当番館挨拶

次期総会当番館（東北地区）として，三角東北大学附属図書館総務課長から挨拶があり，次期総会は令和7年6月19日（木）～20日（金）に東北大学百周年記念会館 川内萩ホールで開催する旨の案内があった。

4. 閉会式

1) 閉会の辞 新地 辰朗（宮崎大学附属図書館長）

5. 散会

以上